第2節　資料館における社会教育活動

1．山口県立山口博物館との共催事業『講座　遺跡ウォークラリー』

当館は、平成27年（2016）6月24日に山口県立山口博物館と連携協力協定を締結した。前年度はその取り組みの第一歩として企画展『半世紀の遺跡調査から読み解く　先史・古代の平川』を当館にて開催し、関連して『山口市平川地区の遺跡探訪』を実施した。

その後、両館で平成28年度以降の事業を協議したところ、「国と県の施設が連携するのであれば、より広域に活動の場を広げるべき」との意見で一致したことから、平成28年度は山口県田布施町にて講座『遺跡ウォークラリー』（共催：田布施町教育委員会）を開催することとなった。

田布施町には、当県最初期の古墳である国森古墳をはじめ、当県最大規模の横穴式石室をもつ後井古墳群などが存在する。現在でこそのどかな田園風景が広がっている町であるが、古墳時代には周辺域を束ねる豪族が居を構えたと推定される地域である。半日では回りきれないほど著名な遺跡が広範囲に分布することから、今回は町域の西半部を中心に見学することにした。10月８日（土）に開催したウォークラリーのスケジュールは以下のとおりであった。

13時00分　田布施町郷土館集合　展示見学・資料解説（写真8）

13時55分　国森古墳（写真9・10）→14時20分　石走山古墳群→14時50分　後井古墳群（写真11）→15時15分　稲荷山古墳群→15時40分　御蔵戸キツネビラ古墳（写真12・13）→15時55分　田布施町郷土館

綿密な下見等の準備を行い、約3時間かけてゆっくりと遺跡を探訪する予定であったが、開催当日は前線をともなった低気圧の急接近により、夕刻から豪雨との予報であった。急遽スケジュールを1時間短縮することとなり、17名の参加者とともに急ぎ足で遺跡を巡ることになった。

古墳時代、柳井湾から平生湾にかけては古柳井（熊毛）水道が存在し、室津（熊毛）半島は本州と分離して島となっていた、とされている。田布施町郷土館では、推定される古柳井水道の範囲と古墳の分布域を確認し、各古墳から出土した土器や金属器などの実物資料を見学した。

その後、田布施町公用車にて2㎞西方の国森古墳へ移動した。準備段階で「ウォークラリーで自動車移動はいかがなものか」との意見もあったが、4月におこなった下見では総数2万歩を計測するコースであることを確認していた。参加者の主体が高齢者であることが予想されたこともあり、歩行距離の短縮はやむを得ないとの判断であった。

国森古墳から御蔵戸キツネビラ古墳までは、徒歩で見学を続けた。蒸し暑い日だったが、参加者は健脚ぞろいだったようで、足下のやや危険な場所もなんなく踏破していた。先を急がざるを得ないため、残念ながら各遺跡での説明は概略的なものになってしまったが、遺跡の立地状況を確認し、古墳時代の風景を想像しながら、楽しく歩を進めることができた。

残念ながら、最終目的地の御蔵戸キツネビラ古墳目前で雨が降り始めた。初志貫徹とばかりに参加者とともにあわただしく古墳に駆け上がり、巨大横穴式石室の見学を行った。

その後、再び田布施町公用車にて田布施町郷土館に戻り、散会となったが、参加者の方々からは「郷土の歴史をくわしく知りました。できるならもっとゆっくり！」「日頃行けない古墳を見ることができて興味深かったです」「ぜひ下松市でも開催して欲しい」などの声が聞かれた。課題も多く残った講座となったが、参加者の満足度は高かったようで、事業の継続的な開催に自信を得られる1日となった。

末筆になりるが、田布施町教育委員会の方々に多大なる協力をいただいたことに対し、お礼申し上げたい。

写真8　田布施町郷土館にて資料解説

写真9　国森古墳へ

写真 10　国森古墳見学

写真 11　後井古墳見学

写真 12　最終見学地へ

写真 13　御蔵戸キツネビラ古墳